

2025 年度 (令和 7 年度) 学校評価自己評価表

幸千 中学校区

校番

福山市立 幸千中 学校

最終更新日

2025年(令和7年)10月20日

I 福山市

ミッション
ビジョン

福山に愛着と誇りを持ち、変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。
各中学校区・学校が、資質・能力の育成に向けた特色ある教育課程を編成し、日々の授業を中心として評価・改善を進めながら、子どもたちの確かな学びを実現している。

II 中学校区						
前年度学校関係者評価の主な内容		児童生徒の現状	育成する力 資質・能力	思考・創造力 表現力 思いやり 能動的市民性		
○ボランティア活動や交流館との連携など、地域との関わり(CSの取組)を通して、子どもたちが成長している。 ●保護者・地域住民への積極的な情報発信を行い、CSの取組を知ってもらうとともに、地域連携をさらに深めて欲しい。		○地域行事やボランティア活動に主体的に参加する児童・生徒は年々増えており、それが児童・生徒の自信や地域への愛着につながっている。 ●中学校区として不登校数はまだ多い。 ●体力テストにおいて、県の平均値以上の項目がまだ少ない。	めざす子ども像 (義務教育修了時の姿)	○主体的に学び よく考える生徒 ○自分なりに表現し伝え合う生徒 ○思いやりのある生徒 ○人や社会に貢献しようとする生徒		
			中学校区として統一した取組等	○住み続けられる町づくりを考えることを目的にした学習を核に各教科等と関連づけたカリキュラムを実施することで、めざす子ども像に迫る取組を行う。 ○生徒の実態を細やかに分析し、生徒のつまずきの要因に対応した指導と支援を行う。		

Ⅲ 自 校

ミッション	
福山に愛着と誇りを持ち、 変化の激しい社会をたくましく生きる子どもを育てる。	

学校教育目標	
有為の人 ～夢の実現にむけ、真摯に努力する生徒の育成～	

現 状	
<p>〈児童生徒〉</p> <ul style="list-style-type: none">・生徒会活動、学校行事など、生徒自らが問題発見、問題解決することに挑戦している。・不登校生徒数は年々微減しており、R6年度 50名(7.7%)。※全国平均(R5) 5.4%・全国学力調査において県平均に近づいている教科(国語)もあるが、全体的に学力の定着には課題がある。・ヘルメットの着用率が低く、ルールを守ることができていない状況が見られる。 <p>〈授業〉</p> <ul style="list-style-type: none">・個人や学年で検定試験に積極的に挑戦しており、教員、生徒ともに学習の定着を図ることにしっかり取り組むことができている。また、その取り組みが生徒の自信につながり、次の目標を立て主体的に学びに向かう生徒もでてきている。・生徒が問いをもつ授業を通して、生徒が主体的に課題に取り組む場面が増えている。しかし、身につけさせたい力を明確にし、全体を見通した授業づくり(単元構想)はまだ十分とは言えない。	

育成する力 資質・能力		思考・創造力	表現力	思いやり	能動的市民性
めざす 子ども像	レベル3	自分自身の「思考・想像力」について評価し、示すことができる。	自分自身の「表現力」について評価し、示すことができる。	自分自身の「思いやり」について評価し、示すことができる。	自分自身の「能動的市民性」について評価し、示すことができる。
	レベル2	情報を収集するとともに、分析・活用しながら、問題を発見し、その問題解決を目指すことができる。	多様な人たちに、相手の立場や背景を考えながらわかりやすく伝えることができる。	周囲の幸せを考えることができ、集団や他者に対して、思いやりを持って行動することができる。	社会をよりよくしようと、社会の主体としての意識を持ち、社会がよりよくなるために行動できる。
	レベル1	与えられた情報を整理できる。	自分の意見や考えを集団の前で話すことができる。	集団や他者との中で、他者を気づかえる。	所属する一員としての自覚を持つ。

研究	テーマ	『問いを創る授業』を基盤とした、生徒が考えたいくなる授業の実現 ～身に付けたい力を明確にした単元構想を通して～	
	内容等	①学力調査等から、生徒の実態を把握し、付けたい力を明確にする。 ②生徒自らが問いをもち、主体的に問題解決を図ることのできる授業づくりをする。	
めざす授業の姿		○生徒が、自身の学習の定着度が分かり、指導者とともに次の目標や手立てが共有できる授業。 ○主体的に問いをもち、問題解決のプロセスを通じて、学び方・考え方を身に付けられる授業。	